

# 選んだ道に迷いなし

## 一人彩人<sup>2</sup>



### 立川志の八さん (横浜市出身)

横浜出身の若手落語家の立川志の八さん。この5月で36歳になる。県立汲沢高校卒業後、デザイン関係の専門学校に進むが、なぜか自分の進路に納得ができず、父親の仕事を手伝う中で志の輔師匠の落語に出会い、衝撃をうける。

自分の求めていたものに入門して、志の輔師匠に入門し、この世界では割りあい遅い入門である。落語との出会いは父親に連れられて寄席にかよった小学生時代。当時、落語界

をリードしていた脂ののりきっていた人間国宝の柳家小さんや古今亭志ん朝などのナマの高座に接することができたのは、今となっては貴重な財産になっていること。8年間の前座修業の後、09年に二つ目を演ずることができない。まるで自社の商品を自分で演ずることができない。

談志が創立した落語家集団で、今なお寄席の定席には出演できない状況にあり、もっぱら自分たちで独演会や勉強会を企画立案して売り込みもやらなければ落語を演ずることができない。

先輩たちです。自分もあれこれ試行錯誤をしながら、自分の落語をつくっていき「目と目を輝かす」「落語の根底には人間への共感があると思う。今の殺伐とした時代だからこそ、落語の可能性を追究したい」と意欲を見せる。

### 自分の世界つくりたい

に昇進した。

落語立川流といえば、家元の立川談志の英才教育、

厳しい昇進試験で有名だが、「好きで選んだ道であり、修業を辛いと思ったことはない」ときっぱりと言

で市場を開拓していく中小企業の経営者のようだ。しかし、志の八さんはそれをハンディキャップとは思わない。「師匠たちが苦勞して道をつくってくれたことを思えば、たいしたこと

この5月14日には、昨年試みた兄弟子の立川志の吉さんとの「ペヤング兄弟会」を関内ホール（小ホール）で、また5月25日には吉野町市民プラザで志の八さん自身が「自分で自分の首を絞めるような勉強会」という「立川志の八落語会」を開催する。その意気に期待したい。

い切る。落語立川流は78年の落語協会分裂騒動の余波をうけて、83年に家元立川

「自分の落語をやっている

（市川鴻笑）